

中の村自治会 防災分科会における情報伝達と収集に関する提案事項

令和7年(2025年)3月6日

大坪常会 中田 猛

本分科会の情報担当委員として、以下の施策をご提案致します。この内容が活発な議論の発端となれば幸いです。更にもっと良い新たな方法論が見つかるかも知れませんので是非忌憚の無いご意見を頂ければと存じます。

あくまで目的は、未曾有の災害が起きた時、いかに人的被害を最小限にとどめる事だと考えます。

1. スマホを利用した防災グループラインの構築 (情報の発信・収集)

- ・情報を受け取る側からすれば、住民の多くが携帯している。停電時でも(電池が無くなるまでは)瞬時に情報を受け取れる情報インフラである。(発信も出来る)

- ・本人(高齢者等)がスマホを所持していなくとも、もし、その方の息子(娘)さんやお孫さんが、身近にいらっしゃれば、その情報を受け取り、伝達することが可能な手段であると考えられる。

- ・今、起こっている状況(板木川の氾濫等)をリアルタイムに「文字・画像・動画」で瞬時に中の村住民伝えられることが可能であり、それにより他の住民の自主的な避難を促す要因となることが考えられる。

但し、愉快犯(イタズラ)対策として発信する際の一定のルールを設ける必要がある。
(例:常会名と氏名をポスト記事の冒頭に必ず加えること等)

- ・三次市の災害担当者が直接、同グループラインにポスト出来る仕組みを整える事が出来れば、人を介さずに重要な情報伝達が可能である。

※大坪常会における成功例:秋季例大祭の本当屋運営における具体例(口頭説明)

※常会長の立場からの利便性(口頭説明)

2. ブログ上でのアンケート実施 (情報の収集)

- ・ネット上(ブログ)でアンケートを行う事が可能(大坪常会ブログで実績あり)
面と向かって行う決議では、躊躇される事が多々あると考えられるが、匿名性の高いネット上でのアンケートであれば赤裸々な意向が収集出来ると考えられる。

※アンケート内容は二者選択、若しくは複数選択が可能

3. 板木川の上流へ河川カメラを設置する。落合橋の情報は結果であり、もっと早い段階の情報を視覚的に得るのが目的である。(情報の収集)

・市（県）に対して、方法論を模索する。

※当分科会においては組織だった動きをしているので、もし署名が必要であれば容易であるとする。(レク付き臨時常会の際に集める等)